

幼少期から住宅に興味がありました。大学では土木に進みましたが、やはり建築をやるうと大学院で転学しました。経済学の要素が入っていることが興味深く感じました。

大学院時代の恩師がPM（プロジェクトマネジメント）／CM（コンストラクションマネジメント）の第一人者でした。そのころ、恩師が日本コンストラクション・マネジメント協会（CM協会）の立ち上げに奔走していました。日本建築学会の大会でも分離発注の発表を聞いていて、面白そうだと思いました。

当時はPM／CM専業会社はほとんどなく、新卒採用をしていませんで

山下PMC取締役専務執行役員

村田 達志氏

マネジメントの大切さを信じて



した。自分から直接メールを送ってアプローチしたのが入社のきっかけです。入社時は10人くらいで、どうやって業務を行うかも明確に定まっていなかったころです。打ち合わせの議事録作成から始まり、何でもやりました。会社のホームページも作成して、CMの説明を自分で書きました。

初めて主担当になったのは、ガソリンスタンドをセルフ化していくプロジェクトでした。ガソリンの計量器や洗車機をセルフ化に対応して更新し、配管などもやり直す仕事を委託されました。各地にあるガソリンスタンドが対象で、社内で行ういろいろな人によって行うため、業務をやりつつ

マニュアルを作成して定型化していきました。責任を持つて全てをやるのが大きな学びになりましたね。

20代後半に主担当で携わったデータセンターのプロジェクトも思い出深いです。証券化スキームを取り入れた案件でした。建築プロジェクトの推進と、金融機関への説明の両方が求められました。役割分担など定まっておらず手探りの中でやり遂げました。延べ14万平方メートルの高層ビルのCM業務も貴重な経験でした。プロジェクトを進めるためのロジックや、提出資料での表現の

新婚旅行で訪れたスペイン・バルセロナのグエル公園で



いますが、しっかりとコミュニケーションして物事を前に進めていくことも、とても難しく価値があります。まずはそこから担ってほしいですね。

マニュアル化された部分が増えましたが、案件によって変えるべきところもあります。全く同じように進む案件などありません。新たな用途や技術革新もあります。過去を信じ過ぎることなく、自ら新たな形を作り上げようとする姿勢が大切です。私は、CM業界に成長させてもらいました。CMはまだまだこれから広がる可能性を秘めています。しっかりと根付くよう貢献していきたいです。

重みを発注者に学ばせてもらいました。発注者も組織で仕事をしています。内部で意見が対立していることもあるあります。技術的な部分だけではなく、発注者に葛藤があることも考えながらマネジメントすることが非常に大事です。

新卒の方も増えました。設計・施工の経験がないままPM／CMをやることに不安があると思

（むらた・たつし）2002年京都大学大学院工学研究科建築学修士、山下設計入社。同年山下ピー・エム・コンサルタンツ（現山下PMC）出身、10年山下PMC入社、18年執行役員、20年取締役、22年常務執行役員、23年専務執行役員。趣味はゴルフ。大阪府出身、47歳。

